

プログラミング あ・そ・ぼ・で

～子どもプログラミング教室～

いまをつくる！

未来を創る！

NPO法人 NEXTDAY

TEAM IchigoJam
ほっかいどう

Mission CARD in POSSIBLE

10名 13:30~15:30



小学4年生～中学3年生 10名 120分講座（休憩含む）



Works with
micro:bit
V2
only

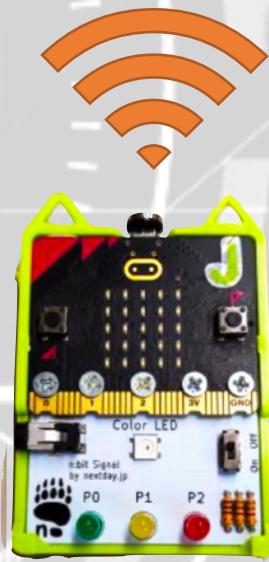


DFROBOT®
DRIVE THE FUTURE

マイクロ マックイーン

Mission
POSSIBLE
CARD

ロボットカー・マイクロマックイーンを、 無線通信による操縦プログラムを、 *n:bit2*を使って、作ります



n:bit2



A, B ボタン
タッチセンサー



マックイーン



モーター

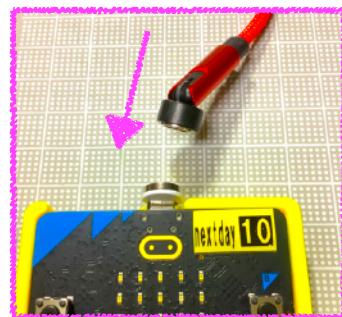
※micro:MaqueenはDFRobot社のmicro:bit用プログラミング・ロボットカーで、制御プログラムの学習に必要な、現実環境とPLCの関係がわかりやすく学べる、最適の教材です。

*n:bit2*は、NPO法人NEXTDAYが開発したmicro:bitV2専用の教育向け拡張ユニットです。

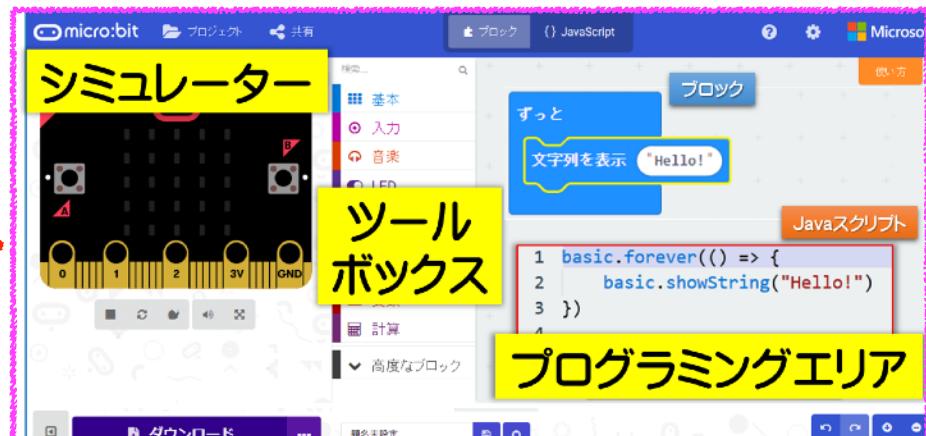
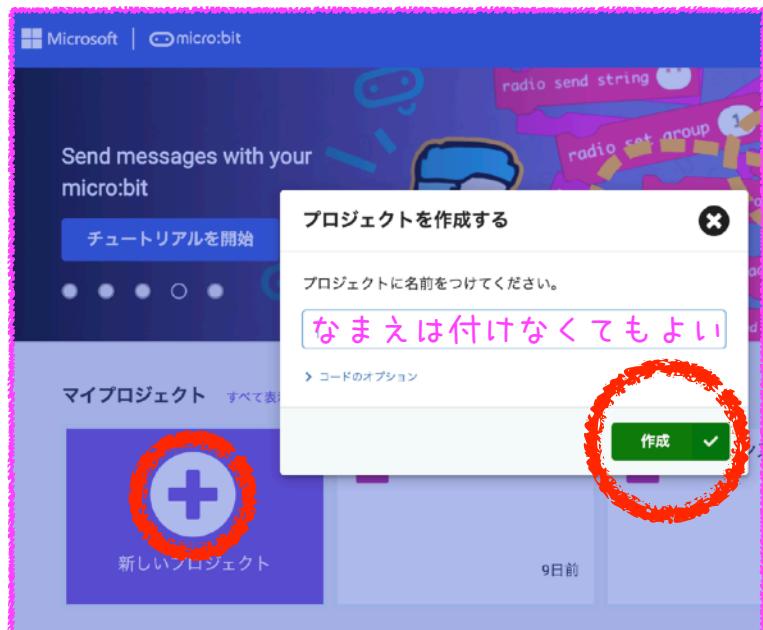
1-1. micro:bit(n:bit+2)にケーブルをつなげる



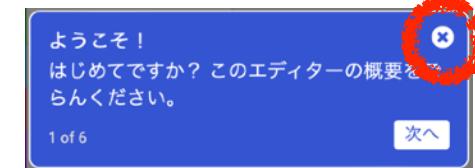
n:bit2のでんげんは
Off



1-2. + をクリックして、あたらしいプロジェクトをつくる※



もし、“ようこそ！”の
ポップアップが出たら
×をクリックして消す



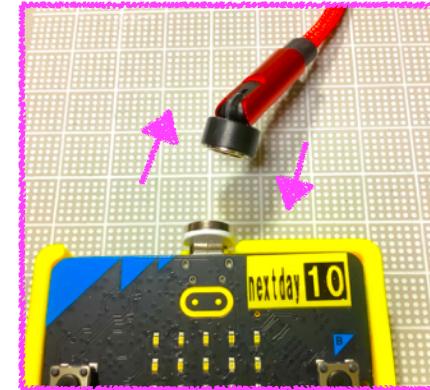
※micro:bitのプログラムは、MakeCodeエディターを使って作成します。ここでは必要最小限の作業を説明しています。

詳細については、BBC公式ホームページのクイックスタートを参照してください。 <https://archive.microbit.org/ja/guide/quick/>

1-3. ロゴが  になっているかな? *



もし、ロゴが表示されていなかったり、
ロゴが  のままなら、ケーブルをつなぎなおしてみよう



1-4. 「ダウンロード」をクリックして、
micro:bitにプログラムをてんとうする



micro:bitにプログラム転送中は
USB電源LED（黄）が点滅します



1-5. プログラムがうごきます

でも、まだ「プログラムを作っていないので、ここで
は何もおきない



※コネクトアイコンが非表示なら「デバイスを接続する」操作が必要になる場合があります。下記を参照してください。

<https://support.microbit.org/support/solutions/articles/19000084059>



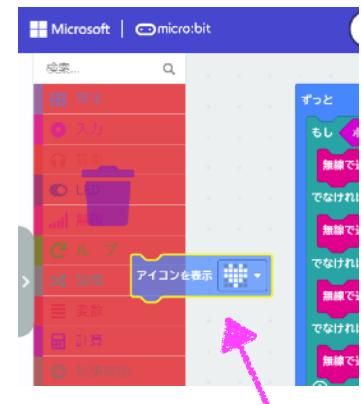
今回使うブロックを用意しよう

2-1. 左の絵と同じブロックをツールボックスからさがす

2-1. みつけたブロックをクリックする

2-3. プログラミングエリアにブロックがあらわれる

十をクリックすると、ブロックがのびるヨ！



いらないブロックはツールボックに持っていくと、さくじょできる！

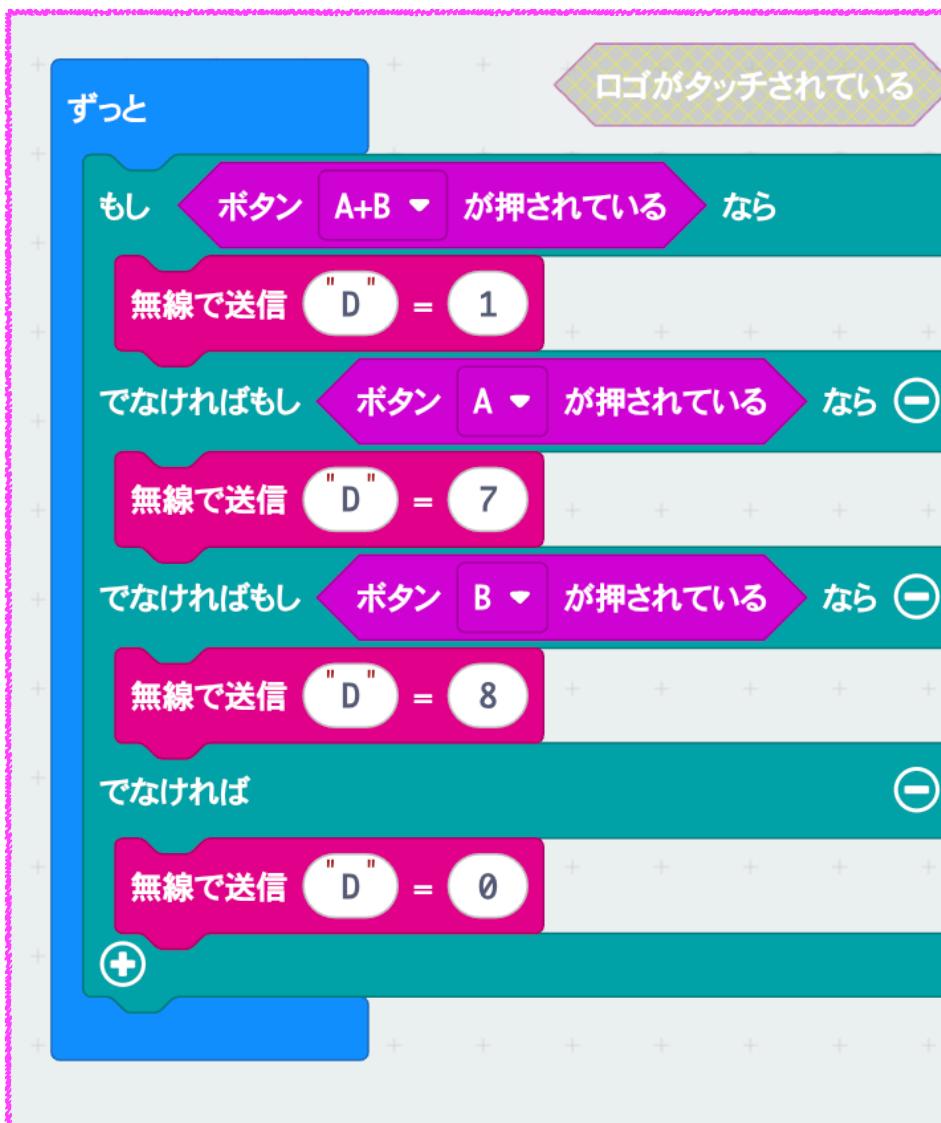
2-4. 今回使うブロックを画面に全部ならべよう

The image shows a Scratch script editor with a light gray background and a white grid. Various Scratch blocks are placed on the stage:

- Control blocks:**
 - Top row: "最初だけ" (blue), "ずっと" (blue), "ボタン A+B ▾ が押されている" (purple).
 - Middle row: "無線のグループを設定 ?" (pink), "もし 真 ▾ なら" (teal), "ボタン A ▾ が押されている" (purple).
 - Bottom row: "数を表示 ?" (blue), "でなければもし 偽 ▾ なら -" (teal), "ボタン B ▾ が押されている" (purple).
 - Bottom-left: "でなければもし 偽 ▾ なら -" (teal), "でなければ" (teal), "無線で送信 [D] = 1" (pink), "無線で送信 [D] = 7" (pink), "無線で送信 [D] = 8" (pink), "無線で送信 [D] = 0" (pink).
 - Bottom-right: "ゆさぶられた ▾ 動き" (yellow), "ロゴがタッチされている" (yellow).
- Sensing blocks:**
 - Bottom-left: "ゆさぶられた ▾ 動き" (yellow), "ロゴがタッチされている" (yellow).

※実際の画面ではブロックを置いただけでは色はありませんが、ブロックを繋げると色がつきます

3-1. ブロックをつなげてプログラムをかんせいさせる



こここの番号は名ふだの数字と同じにする！

A. プログラムがかんせいしたら、n:bit2のスイッチがOFFであることをたしかめる。

micro:bitのUSBケーブルはつなげたまま

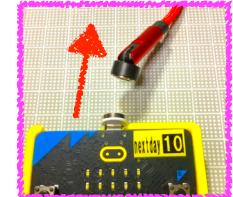


B. ☐が、てんめつしていないことを確認して、プログラムをmicro:bitにダウンロード(転送)する

ダウンロード

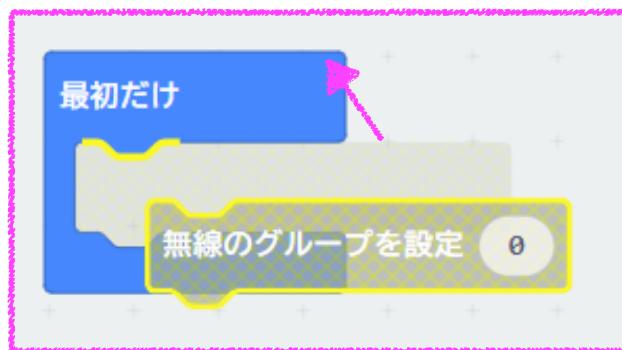
プログラムをmicro:bitに書き込む。

C. USBケーブルを micro:bitからはずす



つぎのページにブロックのつなげ方が書いてあるよ

3-2. ブロックどうしを近づけると、じどうにつながる（プログラムが作られる）



「無線のグループを設定」の番号を、自分の名ふだの数字（0～9）と同じにする

3-3. どんどんブロックをつなげて、プログラムをかんせいさせよう

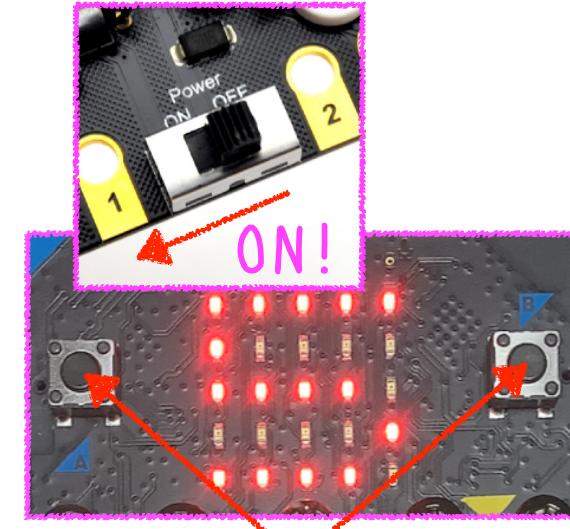


赤丸と黄色線で「目じるし」ができるので、じょうずにブロックをつなげる



はしれマックイーン！
Run Maqueen!

- 4-1. マックイーンのおしりのスイッチをON!にする
- 4-2. Aボタンを押しつづけて、
番号と名ふだの数字を同じにする
- 4-3. Bボタンを押して決定する！

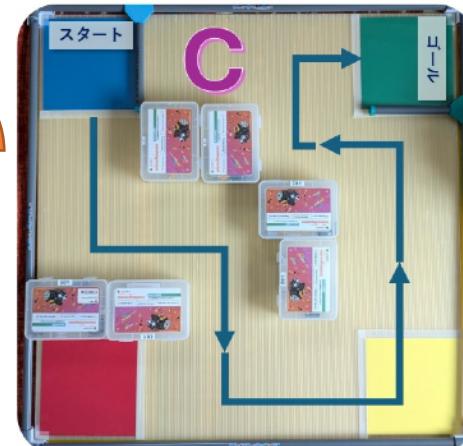


- 4-4. n:bit+2のスイッチをON!にする
- 4-5. n:bit+2のA+Bボタン、Aボタン、Bボタンを押して
マックイーンの動きをたしかめる

Aボタン Bボタン

タイムレースをしよう

- ★マックイーンを、スタートに置く
- ★ゴールへ、じょうずにそうじゅうして走らせる
- ★早くゴールするために、プログラムをかいりょうしよう



はじめマッタイーン！
Run Maqueen !



思うように動かないときは

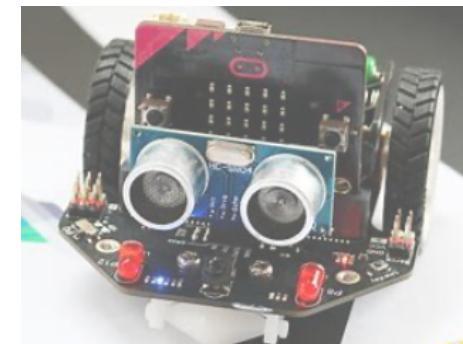
- ・でんげんはON?かな でんち?はあるかな?
- ・micro:bitがMaqueenから抜けていないかな?
- ・プログラムは、すべて3のとおりだよね?
- ・ちゃんとダウンロードできたかな?

④を忘れないかな?

?

すべて1

の1-3. をみよう



もういちどダウンロードして、再チャレンジしよう 10

マッケイーンのしくみ How Maqueen works



むせんで動くしくみ

マッケイーンのプログラムは「無線によるコマンドを受信したら、それに応じた動きをする」という、つくりになっています。

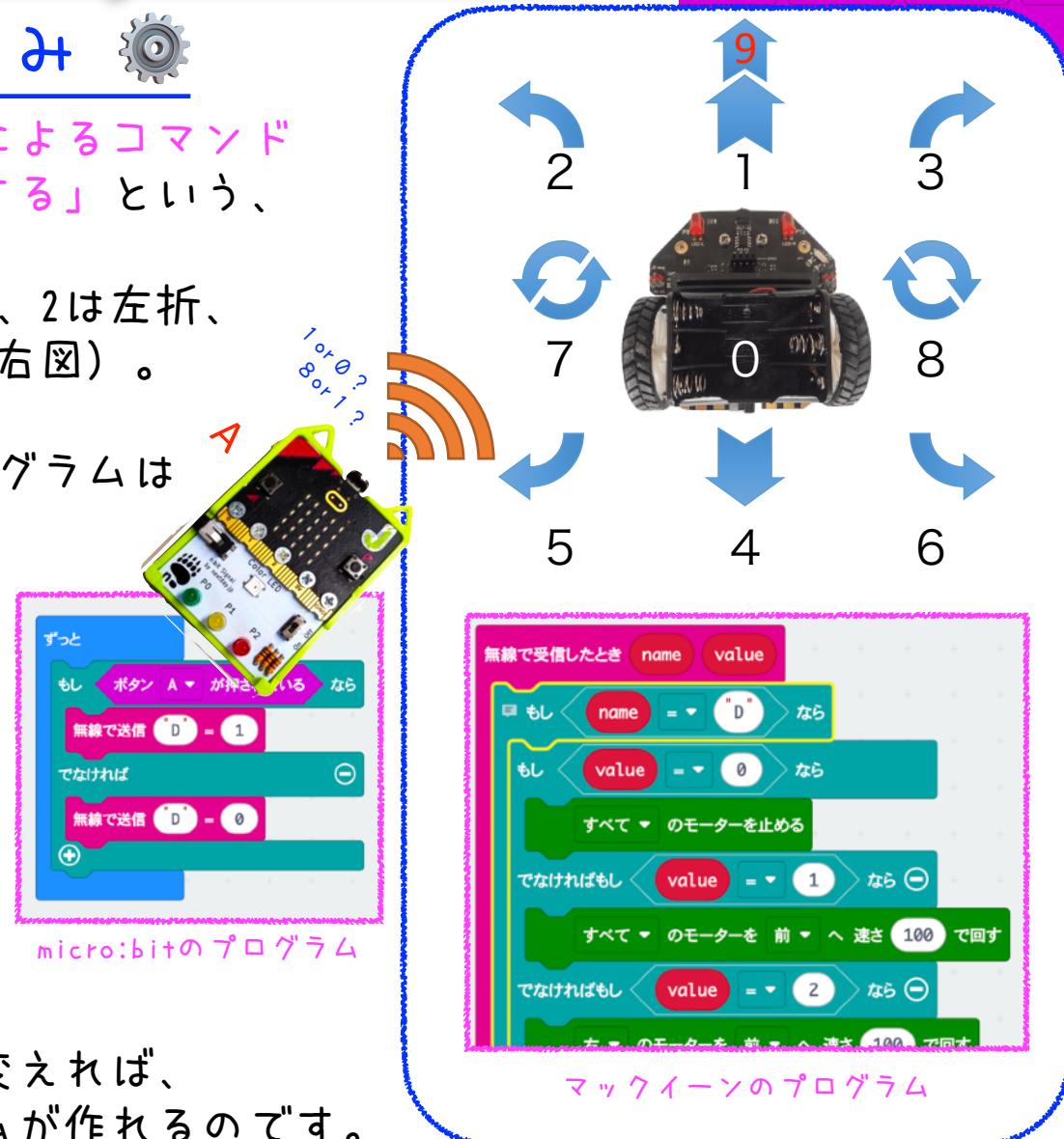
今回は、コマンド1は前進、0は停止、2は左折、8は右旋回、の様な動きにしました（右図）。

いっぽう、micro:bit(n:bit2)のプログラムは「操作に応じて、無線でコマンドを送信する」というつくりにします。たとえば「Aボタンを押したら1(前進)を送信、離したら0(停止)を送信する」という具合です。

あるいは、別の人は、

Aボタンを押したら8、離したら1、と考えるかもしれません。

コマンドと操作の組み合わせ方を変えれば、自分専用のオリジナル操縦プログラムが作れるのです。



いま を つくる！

micro:bit拡張ユニット
『n:bit』



NPO法人 **NEXTDAY** は
子供たちの学びを支援しています

お問い合わせは nextday@ict.skr.jp

環境測定機
『Science CUBE』



未 来 を 創 る！

ロボットカー
『micro Maqueen』



子どもたちに 創る + Information Communication
Creative T & Collaboration 楽しさを！



<https://nextday-kids.com/>

テキスト内の社名および製品名は商標又は登録商標です